

九州歯科大学模擬講義一覧

講義 番号	講義内容		講 師		
	タイトル	概要	分野	職位	氏名
1	「医療コミュニケーションスキルの重要性」	コミュニケーションエラーが生じると安心安全な医療を提供できなくなります。エラーの生じにくいコミュニケーションとは何かを体感することで、日頃何気なく用いているコミュニケーションと一緒に考えてみましょう。日々の人間関係を考えるヒントにもなります。	歯学科 総合診療学	准教授	木尾 哲朗
2	「歯の治療—現在と未来—」	歯の治療と聞いて皆さんは何を想像しますか？本講義では、歯の治療の現在と未来についてお話します。「現在」については顕微鏡を用いた治療や審美治療の話題を、「未来」については歯科医療における再生医療に関する研究を取り上げます。本講義を通して「歯の治療」の姿を皆さんにお伝えしたいと思います。	歯学科 口腔保存治療学	教授	北村 知昭
3	「審美歯科をめぐるお話 人の顔の見方」	近年、「審美歯科」はテレビや雑誌といったマスコミで取り上げられる機会がますます多くなってきていますが、実際どんなことをしているのかわ知っている方は少ないように感じます。良く広告などで目にする「白い歯」「美しい歯」を実現するために、「歯科医師」がどんなことを考え実践しているのか？また、そのためにどのような最新器材（顕微鏡や、レーザーなど）を用いているのか？を歯科四方山話を交えながら判りやすくお話したいと考えています。	歯学科 口腔保存治療学	助教	西野 宇信
4	「歯周病は全身に影響する?? 歯医者的重要性!!」	歯周病が全身に影響するとテレビのCMで流れています。本当かどうかをお話します。まずは歯医者はむし歯や入れ歯だけではなく様々な治療を知ってください。	歯学科 歯周病学	助教	村岡 宏祐
5	「入れ歯治療の最前線 —えっ、こんなことまでできるの? 最新の歯科治療を大公開—」	コンピュータテクノロジーの進歩とともに、今、歯科治療が変わろうとしています。本講義では、歯を失うことはどういうことか、という素朴な疑問の問いかけから始まり、手や足を失った人が義手や義足を使いこなしているのと同じように、歯を失った人は「入れ歯」を手に入れることによって機能回復(リハビリテーション)を行っていることと、その重要性について解説します。さらに、最新の「入れ歯」治療について今話題のインプラント治療も含めて動画や写真などを交えながら判りやすく説明します。	歯学科 口腔再建リハビリテーション学	教授	細川 隆司

講義 番号	講義内容		講 師		
	タイトル	概要	分野	職位	氏名
6	「うるおいの源 ～だ液～」	超高齢社会の到来により、お口の渇きもクローズアップされるようになってきています。お口は空気や食べ物が通る器官、すなわち呼吸器と消化器の役割を併せ持ち、外来の異物への最初の防波堤という側面もあります。その防御には“うるおい＝水分子”が鍵なのですが、水分子を体の外に出すには単純なようで巧妙で複雑な“からくり”があります。講義では細胞の話から、実際にうるおいが失われるトラブルまで幅広く解説します。	歯学科 口腔再建リハビリテーション学	准教授	中本 哲自
7	「第3の歯？インプラント治療の最前線」	最近、テレビや雑誌などで取り上げられることの多い「インプラント治療」とはどのような治療なのかを分かりやすく説明します。さらに、九州歯科大学附属病院で行っている最新のインプラント治療についてもお話したいと思います。	歯学科 口腔再建リハビリテーション学	助教	正木 千尋
8	「口をあけたままで唾液を飲み込めますか？ — 摂食・嚥下障害の理解のために —」	高齢化社会を迎えて加齢あるいは脳血管障害の後遺症による摂食・嚥下障害が増加しています。摂食・嚥下障害は患者のQOLを著しく低下させ、また低栄養、脱水、誤嚥性肺炎、窒息などを引き起こして生命を脅かします。それゆえその機能回復を目的とした摂食・嚥下リハビリテーション法の開発は重要な課題です。その課題解決のためにはまず摂食嚥下のメカニズムを知ることが必要です。摂食・嚥下の神経筋メカニズムについてお話します。	歯学科 総合科学	准教授	河岸 重則
9	「うま味も苦味も味蕾から」	脳のない動物はいても、腸のない動物はいない。腸の入口は口で、腔腸動物は口と腸があるだけである。ヒトも含めた脊椎動物の腸の入口である口には味蕾という化学受容器が存在し、味覚すなわち腸に入る物質を味で監視している。これによって、変な味、すなわち体に良くないものが入ってくると、瞬時に吐き出すことができる。一方良い味、すなわち体に良いと思われる物質は、腸に入ることを許される。このような味覚と味蕾の形態と機能について話します。	歯学科 口腔組織機能解析学	教授	豊島 邦昭
10	「細胞がつくる人体の構造」	人体は様々な細胞が集まって構成されている。いかに人体が精巧に作られているのかを、顕微鏡で見た臓器について解説する。	歯学科 口腔組織機能解析学	准教授	瀬田 祐司

講義 番号	講義内容		講 師		
	タイトル	概要	分野	職位	氏名
11	「『のどの渇き』のメカニズムを探る」	水を塩分を適度に摂取することは、生きて行く上で食べることより大事なことです。汗がでるとのどが渇きます。なぜ、汗がでると、のどが渇くのかを判り易く解説します。熱中症対策にも触れる予定です。	歯学科 生理学	教授	稲永 清敏
12	「医療系大学における研究最前線 ～生命の神秘～細胞外マトリックスの役割～」	最近、細胞の周囲を支える細胞外マトリックスに関する研究が、医療分野で注目を集めています。九州歯科大学でも、将来の歯科医療への応用を目的に、さまざまなマトリックス研究が現在も進められています。ここではその一部をお話して、我々の体を構成するマトリックスについてわかりやすく説明します。	歯学科 感染分子生物学	准教授	有吉 渉
13	「医療系大学における研究最前線 ～身近な病気である歯周病の恐ろしさ～」	歯周病細菌は、歯周組織の破壊だけでなく、様々な全身疾患に関与しています。今回は、歯周病細菌学の視点から、全身疾患とくに動脈硬化症発症メカニズムへの関与について分かりやすく、説明します。	歯学科 感染分子生物学	助教	沖永 敏則
14	「口臭についてもっと知ろう」	口臭の関心は高校生の間でも高いにもかかわらず、病態についてしっかりした知識をもっている者は少ない。そこで口臭の原因・検査法・治療の流れについてわかりやすく話すとともに口臭からわかる全身の健康状態についても触れる予定。	歯学科 地域健康開発歯学	教授	安細 敏弘
15	「う蝕細菌の分子生物学」	歯垢の中には900を超える細菌種がいると言われていますが、その中に生息するう蝕(むし歯)細菌ストレプトコッカス・ミュータンスがどのようにして歯の表面に付着し、歯を脱灰するのかについて、糖との関連を中心に講義します。高校生の化学・生物の知識で歯垢の中での口腔細菌の挙動を鮮明に伝えることを本模擬講義の目標としています。	歯学科 地域健康開発歯学	助教	吉田 明弘

講義 番号	講義内容		講 師		
	タイトル	概要	分野	職位	氏名
16	「歯科領域における放射線の利用と被ばく」と 「九州歯科大学と歯科学の紹介」	歯科領域における放射線の利用と被ばくでは、医学の中で進歩が著しい放射線学の分野が医療にどのように応用されているのか、どの程度被ばくが生じ、人体に影響するのか等を説明します。九州歯科大学と歯科学の紹介では、九州歯科大学の紹介と本学を通して歯科学で学ぶこと及び卒業後どのような仕事を行っていくのかを説明します。	歯学科 歯科放射線学	教授	森本 泰宏
17	「口の中にも癌はできます。 口腔癌の予防と治療の最前線」	超高齢社会の日本では2人に1人が癌になり、3人に1人が癌で亡くなります。口の癌の頻度は高くないですが、確実に増加しています。予防と早期発見が重要であることは当然ですが、治療にあたっては顔の形という審美性と“食べる・話す・呼吸する”という複雑な機能をいかに温存し、良い治療成果を挙げることが大きな焦点です。癌の芽は実は若い年代にすでに発生しています。予防と治療の最前線を説明します。	歯学科 顎顔面外科学	教授	富永 和宏
18	「口腔医としての歯科」	今、全身医療のなかの歯科の役割が注目されています。歯医者さんのイメージを脱却した仕事をしている歯科医師もたくさんいます。歯科医療の広がり、奥深さをお話します。	歯学科 顎顔面外科学	助教	土生 学
19	「口腔外科って？ —骨粗鬆症治療薬と顎骨壊死—」	口腔外科って何？我々はいろいろな疾患をみっていますが、歯科医がこんなことまでしていること知らない人、高校生は多いのでは？私の中でも、顎骨壊死(Bisphosphonate-Related Osteonecrosis of the Jaw: BRONJ)について少しお話ししながら歯科医がこういったこともやっているのかと理解していただき、将来の選択肢の一つに、歯科医師になろうかなと考えてもらえればと思います。	歯学科 顎顔面外科学	助教	吉賀 大午
20	「あなたの知らない歯医者さん ～歯科麻酔科医のお仕事～」	歯科麻酔科医の仕事を紹介するとともに、大学における歯科医師の役割を説明する予定です。また、医療者として、教育者として、そして研究者として、どのように国際社会と関わっていくべきか、演者の実体験をもとに、お話していきます。	歯学科 歯科侵襲制御学	助教	原野 望

講義 番号	講義内容		講 師		
	タイトル	概要	分野	職位	氏名
21	「舌から全身の健康状態がわかります」	たけしの健康エンターテインメント「みんなの家庭の医学」(朝日放送)で、口から始まる病を徹底予防と題して、スタジオで話をさせていただきましたが、口の中には健康に関わる情報がたくさんあります。その中でも、舌は、その色や形などを細かく観察することで、私達に健康情報を教えてくれます。この講義では、日常生活の中で舌を観察して健康情報を知る方法についてお話します。	歯学科 老年障害者歯科学	教授	柿木 保明
22	「外国へ行こう！ 歯科医療従事者として国際協力」	歯医者や歯科衛生士になったら診療室での仕事しかないと考えがちですが、外国で国際歯科保健協力をしている人達があります。私は私のような大学職員、開業している歯科医師、地域の歯科医院に勤務する歯科衛生士、歯科技工師、歯学部学生と共にトンガ王国で現地のスタッフとともに歯科保健制度作成、トンガ住民に対して保健教育をしています。トンガ王国での活動内容やその時に感じた日本への思い、苦労など学生時代の旅行者としての経験、本チームだけでなく他にも活躍している歯科医療の専門家である日本人の活躍かなどをご紹介しますと思います。	歯学科 老年障害者歯科学	助教	遠藤 真美
23	「口の中の病気を診る -口腔を科学する-」	歯科学は、歯の病気だけでなく、口の病気全体を見る学問です。例えば口内炎もその病気の一つです。この講義では口の中の仕組みを簡単に解説した後、口の中の病気にはどんなものがあり、どのように治療されているのか、どんなことが研究の課題になっているのかについてわかりやすくお話します。	口腔保健学科 口腔機能支援学講座	教授	引地 尚子
24	「脳を鍛える食べ方があります」	ヒトは他の動物とは全く違う食べ方をしています。ヒトは食べ物の見た目を、動物は食べ物の匂いを重視します。ヒトは食べ物を口に近づけ、動物は口を食べ物に近づけます。ヒトは他人と楽しみながら食べることができますが、動物は他の動物を避けるように黙々と食べます。このような食べ方の違いが、ヒトの脳を発達させたのかもしれない。「脳の働き」と「食べる」の関係を知り、「食べる」ことであなたの脳を鍛えてみませんか。	口腔保健学科 口腔保健管理学講座	准教授	吉野 賢一
25	「あなたの食生活、それで大丈夫ですか？ ～口と身体の機能を健康に保つために～」	高校生は、身体の発達や活動量が増加することから生涯を通して最も多くの栄養素を必要とする時期です。しかしながら、やせ願望、欠食・朝食・間食や夜食のとり方、生活リズムが不規則など様々な問題点が指摘されています。口と身体の健康を保つために一度あなたの食生活を見直してみませんか。	口腔保健学科 口腔保健管理学講座	准教授	辻澤 利行

講義 番号	講義内容		講 師		
	タイトル	概要	分野	職位	氏名
26	「虹が綺麗に見えることとむし歯の関係 -ヒトの食性から見る齲蝕リスク-」	むし歯の原因は糖を発酵する細菌がヒトの口腔内に感染して、食事を通じて摂取した糖が発酵されてできた酸が歯を脱灰すし、この脱灰が不可逆的に進行することにより起きる。なぜヒトは糖を摂取するのか、ヒトの食に関する進化からむし歯のリスクを捉えて、歯科保健指導のあり方を考える。	口腔保健学科 口腔保健管理学講座	教授	秋房住郎
27	「歯科衛生士の専門性とは -歯科衛生士と歯科助手の違いについて-」	歯科医療現場の一員である歯科衛生士と歯科助手の違いを概説する。また歯科衛生士の専門性について具体的な例を挙げて説明する。さらに4年制歯科衛生士養成を行っている本校の口腔保健学科について特徴、カリキュラム、進路等について説明をする。	口腔保健学科 口腔機能支援学講座	教授	千綿かおる